

『安定した水道供給と環境にやさしい水循環をすすめます』

1. 目指す姿

安定した水道供給と耐震対策をすすめます

2. 指標

| | | | | |
|----------|---|-----------|-----------|-------------|
| 配水池耐震化率 | ; | H14;58.1% | H18;70.0% | 2020 : 100% |
| 給配水管耐震化率 | ; | | | |
| 鉛管給水管取替率 | ; | H14;53.8% | H18;63.2% | 2020 : 100% |
| 老朽給水管取替率 | ; | H14; .% | H18; .% | 2020 : % |

3. 現状と課題

地球温暖化で西日本の降水量が減少し、上水源の確保の検討が必要です。そのため遠くの水と合わせ、身近な自然が持っている健全な水循環の確保をすすめます。その涵養水を水源とする（水需要予測を）その水予測を「水循環運営管理委員会」で進めます。

そのため、地域の水循環による水資源は、従来の農水最優先から、都市農業にふさわしい水利調整を検討し、生活用水と水環境の改善を推進します。さらに、環境先駆け都市にふさわしく、健全な水循環の再生で自己水量を増やし、まちづくりのなかに水道、下水道などの「水総合管理計画」を策定し、「水循環運営管理委員会」を設置しその促進を図ります。

常に満流で圧力がかかる水道管は、耐用年数40年で本格的な更新期をむかえ、改善計画が進められています。浄化器具を使用や沸かしている家庭が六割もあり、水道管路のリフレッシュ総点検と、水の安全へ水質検査体制を充実します。経年変化管路率（耐用年数40年を超えた管路）は、2007年の4%から2017年に49%になります。ところが改善計画では、2017年目標は34%です。府下市町村の老朽管改善約2,400kmの耐震化計画の改訂とあわせ抜本的な耐震計画が必要となっています。地震に強い改善計画を充実し、災害時の生活用水の確保も進めます。

軟弱地盤や断層帯付近の給水配水管対策を促進し、給水管のステンレス化などの更新・耐震化の整備事業を市、市民、事業所が一体となって進めます。また、限りある水資源を大切に使うために、環境にやさしい雨水利用で節水型都市への転換し、雨水利用施設を全ての公共施設への導入、商店街や事業ビル、一般家庭などへの導入支援をすすめ、安全でおいしい水の供給、施設の更新や維持など水道事業の充実を図ります。

4 . 取組・役割分担

(1) 市民等が取組むこと

- ・引き込み配水管の更新には耐震化を検討
- ・漏水を発見すれば、すぐに連絡。
- ・雨水利用システムを家庭、商店街などへ導入し節水を推進。

(2) 市民等、行政が協働で取組むこと

- ・地域の水循環による水資源の水利調整 「水総合管理計画」の策定

(3) 行政が取組むこと

- ・近くの涵養水源からの水道供給量の確保。
- ・劣化管路を公表し水道改善（耐震）の充実計画の確立。
- ・管路のリフレッシュ総点検を推進。
- ・関係機関や近隣都市と連携し清浄な水と安定した水道供給。
- ・雨水利用システムを家庭、商店街などに設置、その支援で節水を推進。
- ・関係台帳の整備と活用、アセットマネジメント導入の検討